

電子黒板を有効活用して児童の意欲を高める指導の工夫

【行田市教育委員会】

1 学校、学年、教科 小学校、6年生、国語

2 電子黒板を使う上でのねらいと効果

- (1) 視聴覚資料（思い出の写真）を効果的に提示することで、児童の関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 電子黒板上で推敲の仕方を繰り返し実演することで、推敲方法の理解を深める。
- (3) 児童が実際に書いた文章を映し出し、操作、説明を加えることで、意欲や集中力を高め、理解度を深める。
- (4) 児童のよい文章表現やアドバイスをその場で映し出すことで、自分の文章表現と比較し、よりよく推敲できるようにする。

3 本時の授業展開

学 習 活 動	学 習 内 容	電子黒板の活用
1 本時の学習活動を確認する。	○学習内容の明確な理解	
グループごとに読み合い、よりよい卒業文集に仕上げよう		
2 スライドでこれまでの小学校生活を振り返る。	○思い出の想起	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年末PTA用スライドを電子黒板で提示し、関心を高める。 ・ 児童の振り返りたい思い出をインターネットに接続し、西小HPから振り返る。
3 原稿を推敲するときのポイントを確認する。	○推敲の仕方の確認 ○相互評価の観点 ①自分の思いが伝わるよりよい文章表現があるか。(赤) ②将来に向けて夢や決意が述べられているか。(青) ③正しい漢字や言葉づかいで書かれているか。(黄)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板上で実際に書きながら例文を推敲する。 ・ 推敲記号の使い方を提示する。 ・ 推敲のポイントを提示する。 ・ 児童の原稿をカメラで電子黒板に映し出し、実際に3色の付箋にアドバイスを書き込みながら、作業の仕方を確認する。
4 自分の文集原稿を推敲のポイントを意識しながら読み返す。	○自分の原稿の確認 ○文集原稿の推敲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲ポイントの提示。 ・ 推敲記号の提示。
5 グループ内で文集原稿を交換し、よりよい文章になるようにアドバイスする。	○友達の原稿との比較 ○文集原稿の推敲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板上にアドバイスの書き方を示しておく。 ・ 児童が実際に行ったよいアドバイスの例を電子黒板で拡大掲示して紹介し、クラスに広げる。
6 付箋のアドバイスをを読み、文集原稿を推敲する。	○文集原稿の推敲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲記号の提示。
7 本時の学習を振り返る。	○本時の学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよく推敲できた例を推敲前と比較しながら振り返る。 ・ 状況に応じて、児童の原稿を拡大表示をしたり、書き込みをしたりしながら提示する。

4 成果 (◎) と課題 (▲)

◎視聴覚資料（思い出の写真）の画質もよく、50インチの大画面ということで迫力もあり、効果的な資料提示となった。その結果、児童の関心が高まり、意欲的に学習に取り組ませることができた。

複数の写真資料の提示にとっても有効と思われる。

◎無線LANでインターネットに接続でき、教室でも手軽にホームページに接続できた。児童の思い出のページを素早く提示することで、意欲を持続させることができた。

▲文字の表示が小さく教室後方からは見づらかった。
→情報量の多いHPの提示には、部分的に拡大を行うとよいかもしれない。

◎作文のデータを電子黒板に映し出し、児童が行う作業と同じように、実際に書き込みながら推敲の仕方を例示することで、作業方法が明確になり、児童がスムーズに活動に取り掛かることができた。

▲線や波線、文字囲みは見やすかったが、書きなれないためか、文字を書くと、つなげ文字になったり、文字がつぶれてしまったりした。
→電子黒板の裏面にある設定を変えると、多少よいかもしれない。

◎推敲ポイントや推敲記号を提示する際、児童の作業段階に合わせて、スライドを切り替えた。通常の黒板と違い張替えの時間もかからず、資料を提示することができた。

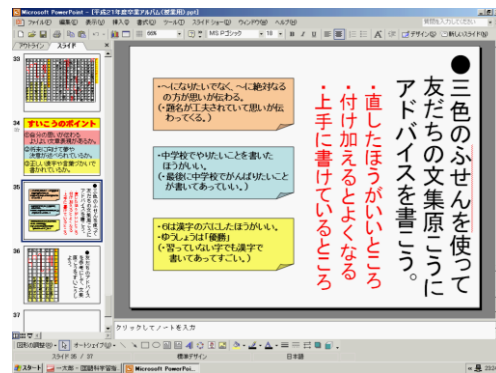
◎児童が実際に書いた文章を映し出し、操作、説明を加えることで、児童の意欲や集中力がより高まった。



【授業導入の課題提示場面】



【推敲ポイントの確認場面】



【提示した推敲ポイントデータ】